

こんにちは

-No. 43-

日本共産党 東村山市議会議員



山田たか子です

山田たか子事務所

TEL 395-4973

携帯090-5824-7597

<秋津事務所>

秋津町4-39-71

<青葉事務所>

青葉町2-28-6

「人間の影響が温暖化させてきたことにはもはや疑う余地はない！」(気候変動に関する政府間パネル)

緊急!

## 日本共産党の2030戦略

いま、「何十年に一度」とされる豪雨災害が毎年発生しています。豪雨、猛暑、大型台風、干ばつ、森林火災、海面上昇、感染症が世界中で起き、かつてない気候危機は、暮らしや命を襲います。

2050年までに大気中への温室効果ガス(大半がCO<sub>2</sub>)の排出を実質ゼロに抑え、気温上昇を1.5度にまで抑え込まないと、人類と地球危機に大打撃を与える事となります。CO<sub>2</sub>排出削減は、人類の未来がかかった課題です。

けれども、政府が掲げる計画は、とても低い水準です。本気で地球を守るには、原発・石炭火力をゼロにすることです。日本共産党は、2030年までに目指す、野心的な目標を掲げました。

気候危機の根源は経済格差などの問題にもつながっています。よりよい地球環境を、未来の子ども達に。思想・信条の違いをこえて力を合わせる時です。



## 活動報告・今後の日程

9月5日 久米川駅頭宣伝

市民や市議会議員、前市議会議員による応援演説。私も「そうだ選挙に行こう!」の歌と踊りで応援。近隣市だけではなく、全国にも広がっている曲です。見かけた時にはぜひ温かい声援と、ご参加もお待ちしています。

9月24日 世界気候アクション0924オンラインマーチ



#見て見ぬふり もうできない

気候危機を乗り越える為に。全世界共通の課題です。社会の転換期です。

10月17日 東村山を変える超党派議員連盟議会報告会

オンライン参加もできます。ご連絡ください。



## 議会報告会

◎東村山市民スポーツセンター 2階 大会議室

2021年10月17日(日) 14:00~

朝木直子 さとう直子 山田たか子 渡辺のみも 茂見みどり 藤田ささみ 山口みよ

9月議会報告①

## 9月一般質問

「子どもの歯からみる健康格差~早期発見と早期治療をどの子にも」

学校等の歯科検診で「要受診」とされても、未受診率が増加傾向にあります。歯科医のお話では、いま多くの児童生徒にむし歯がほとんどない状態である一方、様々な理由から放置され、口腔崩壊(※)となる子もわずかながらおり、「二極化」となっているとのことです。

そこで、市の実態について質問しました。市内の未受診理由は「コロナ」「時間がない」

「保護者の理解不足(乳歯は生え代わるから問題ない、など)」とのことでしたが、全国調査では、窓口負担も大きな理由です。未受診理由を的確に把握し、どの子も早期治療ができるよう教育機関と行政が一体となり、子ども達の健康格差是正の取組を強める必要性があります。引き続き、深めていきたい問題です。

※【口腔崩壊とは】むし歯が10本以上、歯の根っこしかない未処置歯があるなど、咀嚼が

困難な状態



# 2020年度決算を振り返る 本当にお金が無いの!?

「今年も黒字になり  
ました〜」(−−)!

	2019年度	2020年度
歳入総額	570億	770億6千万
歳出総額	548億4千万	741億5千万
収支額	19億3千万	26億5千万
基金の積立額	10億	14億

## 残ったお金はなんと26億円

黒字にすることだけが喜ばしいことでしょうか。毎年、残ったお金の半分程度の金額を基金（貯金のようなもの）に積み立て、その残りは翌年度の予算となります。

そもそも基金は、災害などのいざという時に対応できるように積み立てているものです。災害時のいま、市民生活を守るために使わずに貯め込み、いつ使うのでしょうか。

自己責任ばかりが求められる社会の下で、仕事が無い、収入が減った、体調を崩した、食費を削っている、学費が払えない等、日々の暮らしに困っている市民への支援は行き届いていません。一番身近な行政だからこそ、丁寧に聞き取り、対応ができるはずです。

「お金がない」と、市民サービスを削ることは、住民の福祉の向上を仕事とする行政の役割の放棄です。私たち日本共産党は、公助を拡充し、福祉の視点での自治体運営を求め、本決算を『不認定』としました。

昨年の春から始まり、まだまだ続くコロナの影響。コロナ以前から多くの市民の皆さんの「東村山はお金が無いから…」と、諦めに似た声を伺います。

ここ数年は570億円程度のお金の中でやりくりしていますが、昨年度はコロナ対策や特別定額給付金等の予算として、国や東京都からも多くの補助金がきました。「災害」と言われる中で、通常とは違う対応が求められます。

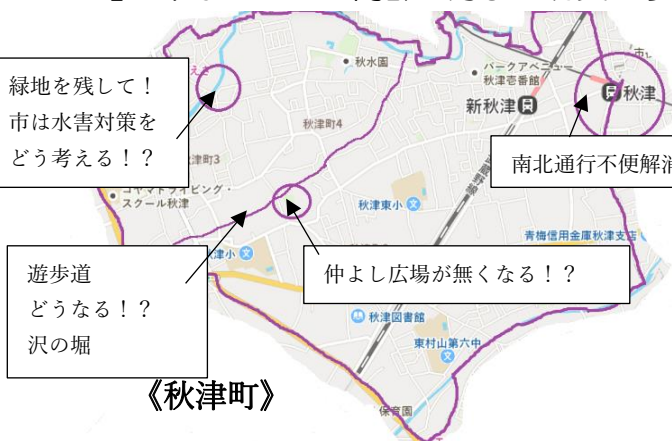
ところが、市のお金を使って実施したコロナ対策事業費は、わずか891万円…



## 秋津で湧き起こる市民の怒りの声 続々と



①秋津駅南北通行②沢の堀整備③仲よし広場撤去と、地域の皆さんへお願いしたアンケート。続々と声が寄せられています。圧倒的に多い怒りの声は「**もっと市民の声を聞いてほしい!**」です。他にも「防災の観点でどうなの?」「公園の思い出が…寂しい」「安心して歩ける環境を」「近くで遊べる場がない!」と、子どもから高齢の方まで切実です。



## 高齢者、障がい者への支援は私たちへの支援

「高齢で足腰が悪くなり、踏切まで回れず、駅の入場券を購入して通行している」「老々介護。車いすを押して踏切を渡ることが怖い」こうした当事者の困りごとは、私たちも経験する時が来るのではないのでしょうか。市内でも地域ごとの困りごとは異なります。私は、それらを一つ一つ解決していくことが、市全体の市民生活の向上につながると考えます。



「採算が取れない」「一部の市民へのサービスは不公平」という姿勢は改めなければなりません。対価に応じてサービスを提供することは民間事業者の仕事であり、利益をあげることが目的ではない支援は、公だからこそできることだからです。

